



会社案内

2023-2024



スズキ株式会社

本社：〒432-8611 静岡県浜松市中央区高塚町300
<https://www.suzuki.co.jp>
(2024.1)

「お客様の状態になって
価値ある製品を作ろう」
「協力一致清新な会社を
建設しよう」
「自己の向上につとめ常に
意欲的に前進しよう」



社是



代表取締役社長 鈴木 俊宏

1920年に織機製造を祖業としてスタートしたスズキは、自転車用補助エンジン「パワーフリー号」を1952年に発売し輸送用機器事業に進出して以来、四輪車、二輪車、船外機、セニアカーなどの使いやすくお求めやすい製品の提供を通じて、人々の快適で豊かな暮らしに貢献してきました。日本のみならず海外にも事業を展開し、世界中の人々に「生活の足」を提供し、お客様のより良い暮らしと経済社会の発展に微力ながらも貢献を続け、こうして創業103年目を迎えることができました。

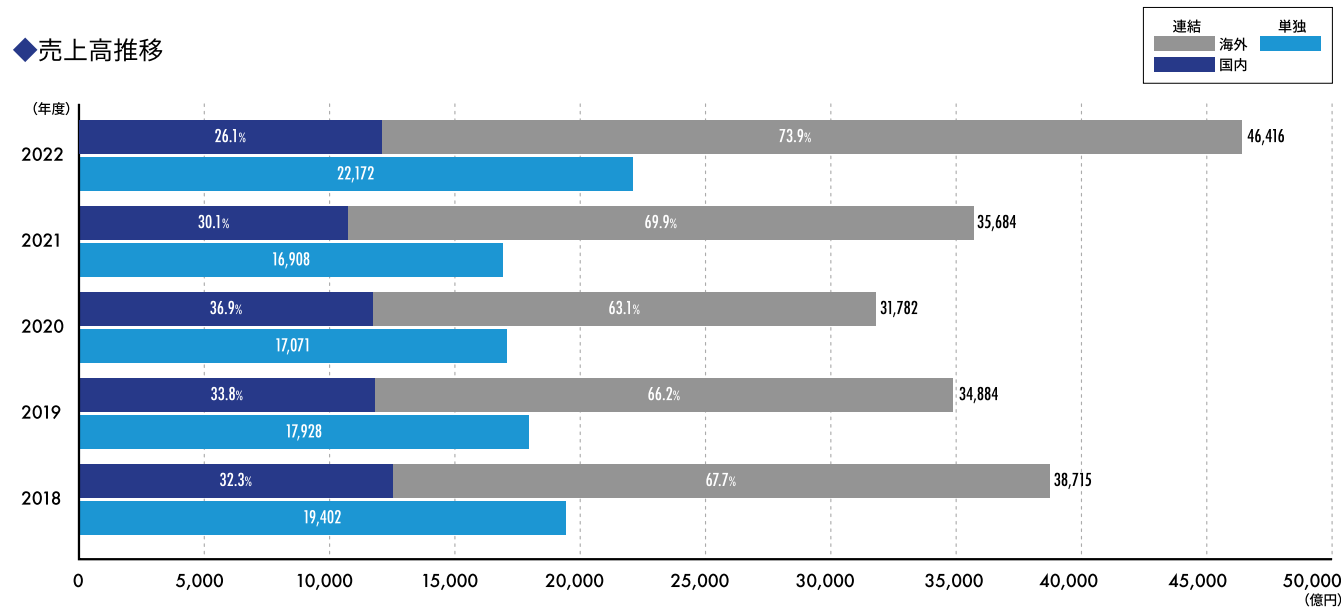
これからも「お客様の立場になって価値ある製品を作ろう」から始まる社是を意識し、スズキグループ全員が協力一致し、従業員一人ひとりが自己の向上に努めて、お客様に価値ある製品を提供してまいります。

会社概要

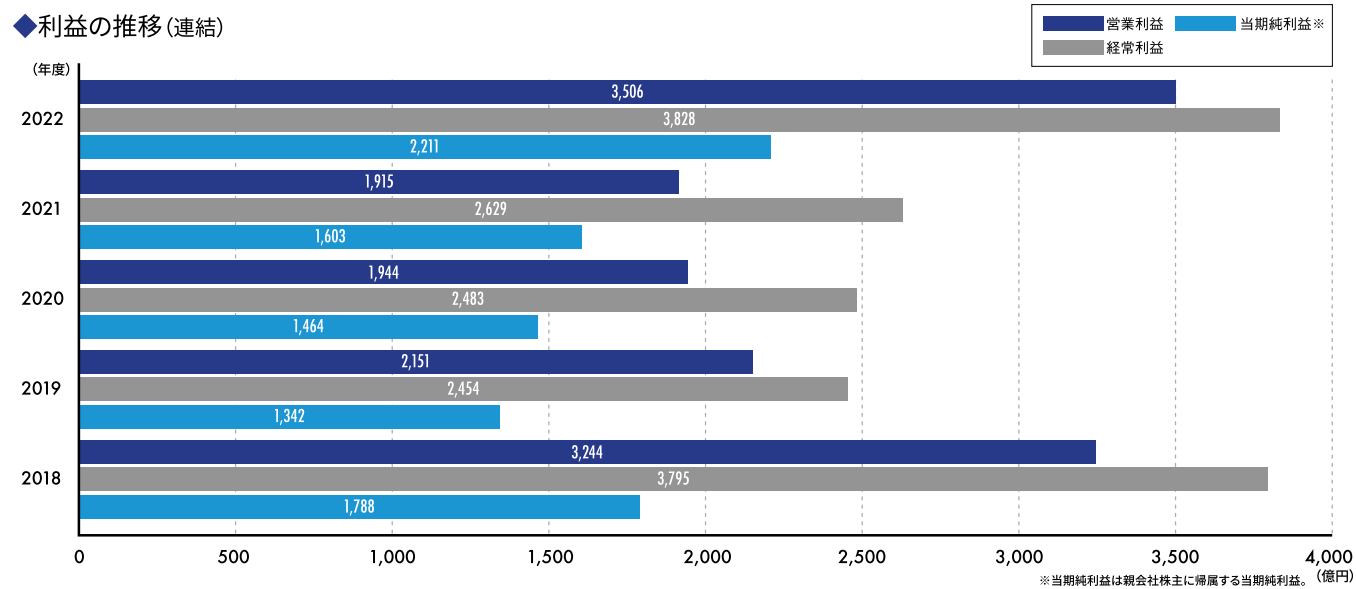
◎社名 スズキ株式会社
 ◎設立 1920年(大正9年)3月
 ◎資本金 138,370百万円(2023年3月31日現在)
 ◎代表者 代表取締役社長 鈴木俊宏
 ◎従業員 連結:70,012人 単独:16,550人(2023年3月31日現在)
 ◎売上高 連結:4兆6,416億円 単独:2兆2,172億円(2023年3月期)
 ◎主要製品 四輪車・二輪車・船外機・電動車いす等
 ◎主な事業所
 本社 静岡県浜松市
 湖西工場 静岡県湖西市
 磐田工場 静岡県磐田市
 大須賀工場 静岡県掛川市
 相良工場 静岡県牧之原市
 浜松工場 静岡県浜松市
 東京支店 東京都港区
 横浜研究所 神奈川県横浜市
 マリン技術センター 静岡県湖西市

◎スズキグループ (2023年3月31日現在)
 連結子会社計 120社
 <国内>
 国内連結子会社計 66社
 (株)スズキ部品製造、(株)スニックなどの製造会社 および
 (株)スズキ自販東京、
 (株)スズキ自販近畿などの直営代理店
 <海外>
 海外連結子会社計 54社
 マルチ・スズキ・インディア社(インド)
 パックスズキモーター社(パキスタン)
 マジャールスズキ社(ハンガリー)
 スズキ・インドモビル・モーター社(インドネシア)
 スズキ・モーター・タイランド社(タイ)などの製造会社および
 スズキドイツ社(ドイツ)などの販売会社
 関連会社 32社

◆売上高推移

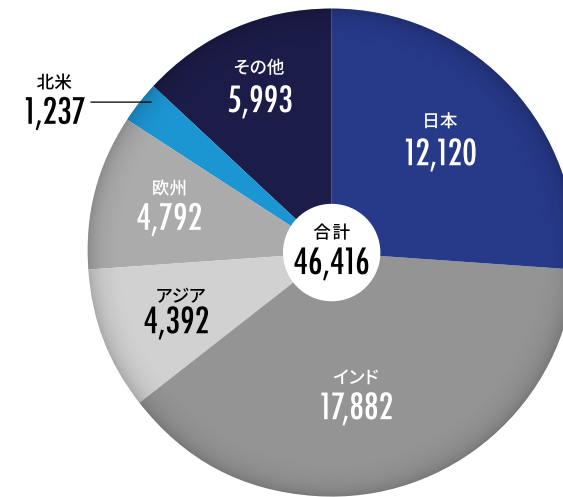


◆利益の推移(連結)

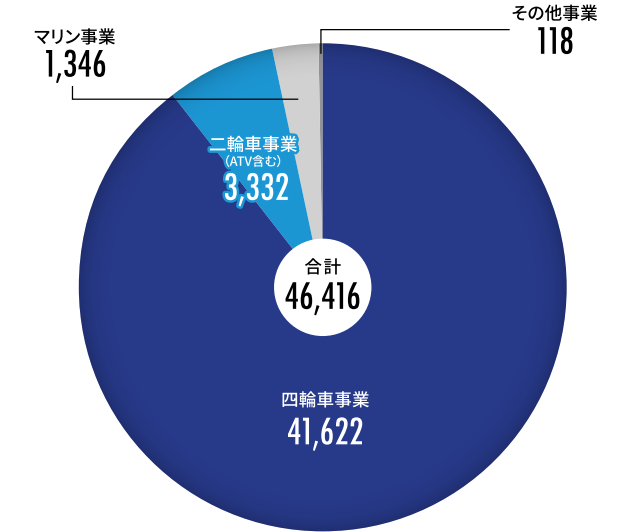


実績(2023年3月期)

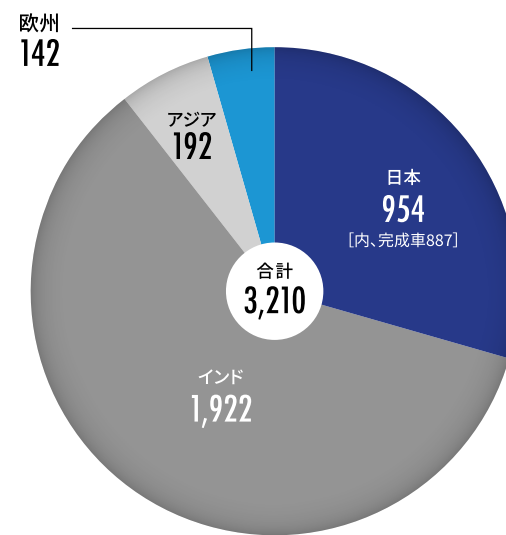
◆地域別 連結売上高(億円)



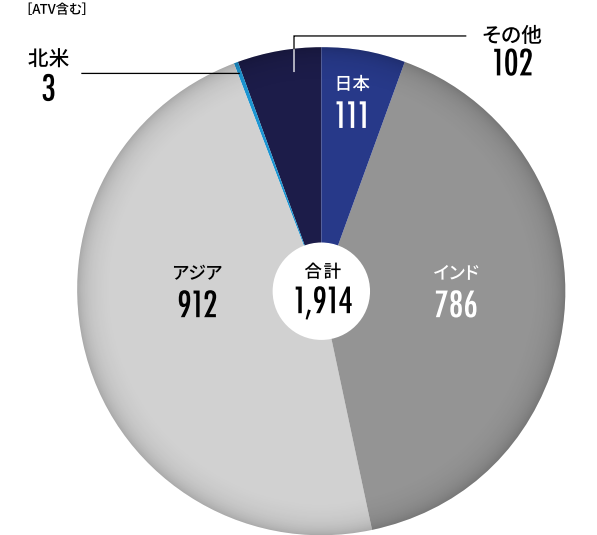
◆事業別 連結売上高(億円)



◆四輪車生産台数(千台)※

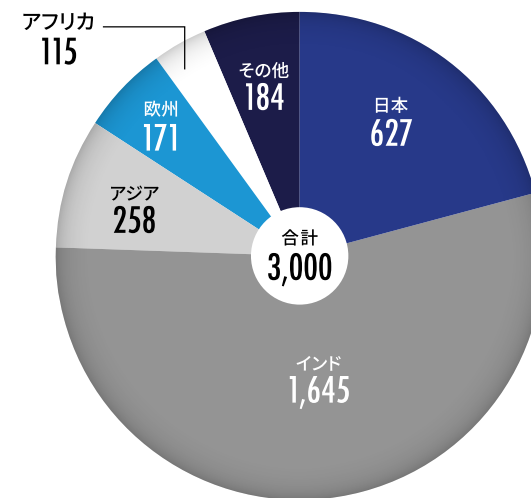


◆二輪車生産台数(千台)※

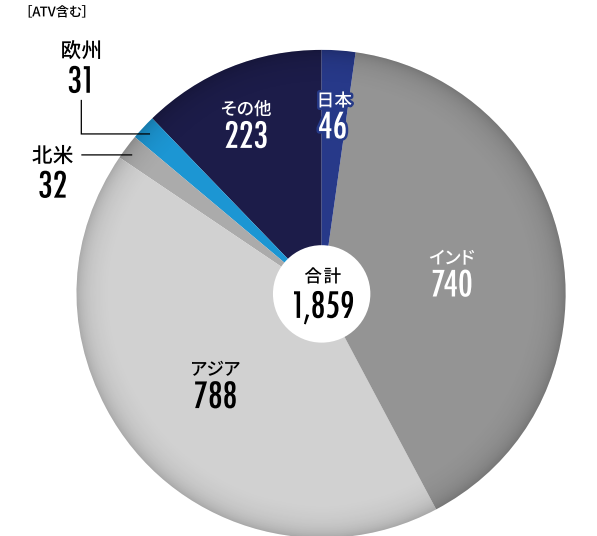


※国内生産:完成車生産台数+CKD生産台数。海外生産台数:現地ラインオフ台数(日本からのCKD分を除く)。

◆四輪車販売台数(千台)



◆二輪車販売台数(千台)



2030年度に向けたスズキの成長戦略

2023年1月26日、スズキは「2030年度に向けた成長戦略」を発表しました。スズキは、お客様の立場になった「価値ある製品」づくりをモットーに、モノづくりの根幹である「小・少・軽・短・美」、柔軟さ、素早さ、チャレンジ精神を忘れない「中小企業型経営」、机上の空論を排した「現場・現物・現実」の三現主義で行動し、スズキらしい2030年度に向けた成長戦略を進めていきます。

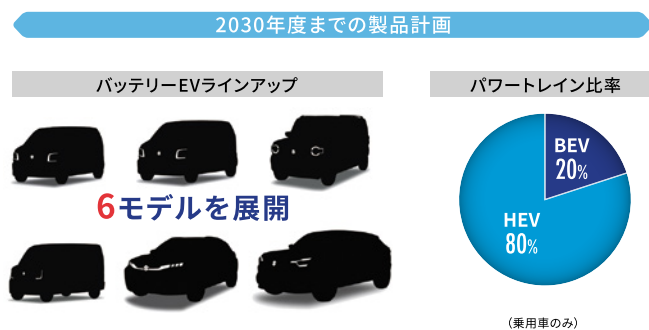
製品分野

四輪車

お客様のニーズと利用スタイルに対応した、適材適所のEVを開発していきます。

日本

2030年度までにバッテリーEVを6モデル展開。



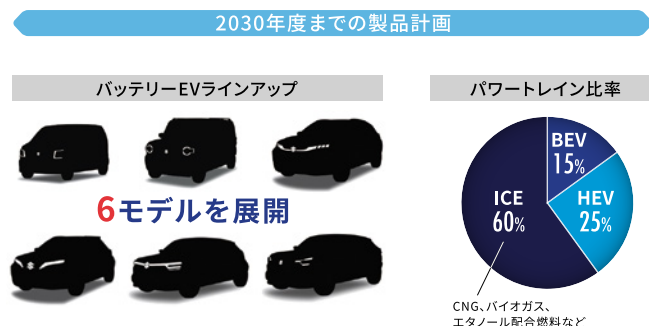
欧州

2030年度までにバッテリーEVを5モデル展開。



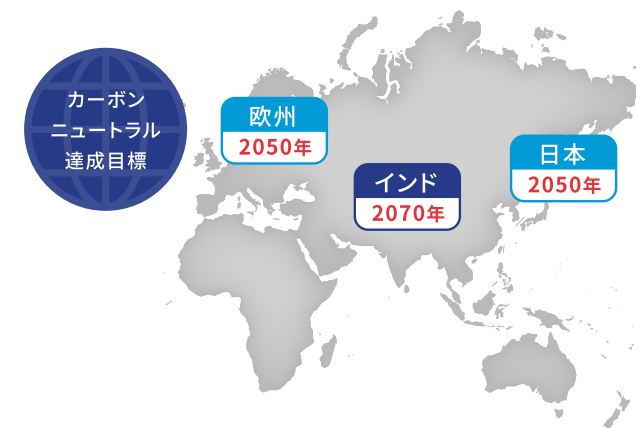
インド

2030年度までにバッテリーEVを6モデル展開。



カーボンニュートラル

スズキは、各国政府が掲げる達成目標時期に基づき、日本・欧州で2050年、インドでは2070年のカーボンニュートラルの達成を目指していきます。



二輪車

小型・中型二輪車は、2030年度までにバッテリーEVを8モデル展開し、バッテリーEV比率25%を計画。大型二輪車については、カーボンニュートラル燃料での対応を検討。



船外機

小型船外機は、2030年度までにバッテリーEVを5モデル展開し、バッテリーEV比率5%を計画。大型船外機については、カーボンニュートラル燃料での対応を検討。



電動モビリティ

お客様ニーズの多様化や環境の変化による新たな市場に向けて、生活を支える小さなモビリティに挑戦。

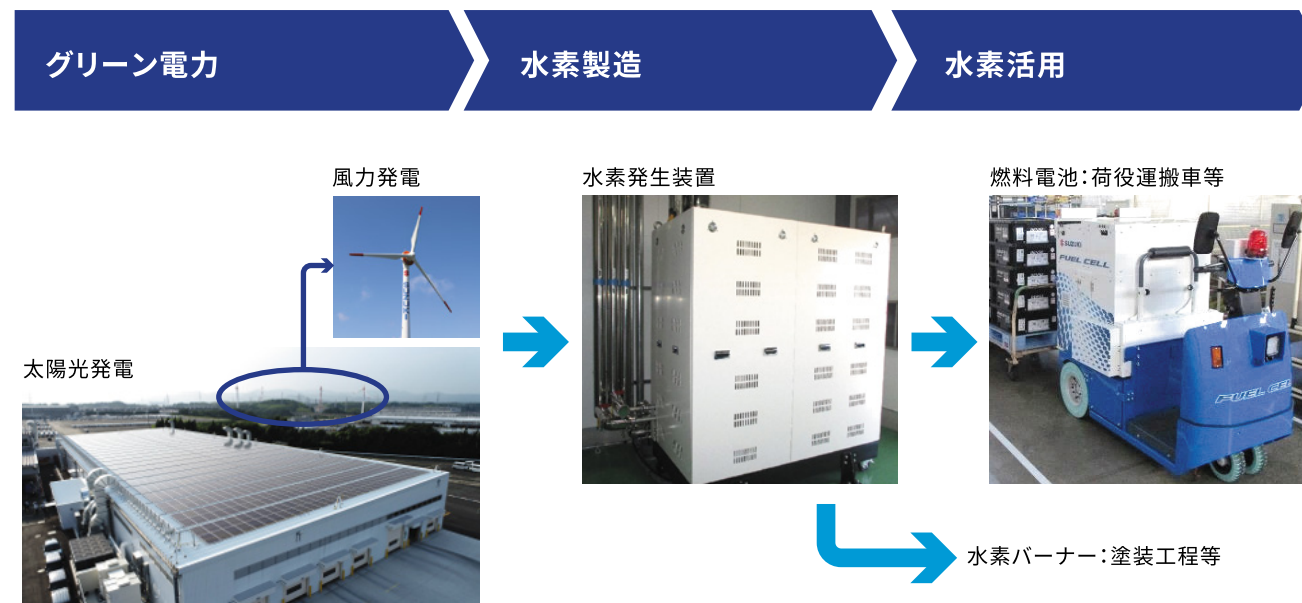


製造分野

日本国内の工場は、
2035年度のカーボンニュートラル達成に挑戦。



さらに、太陽光発電等の再生可能エネルギーからグリーン水素を製造し、その水素をエネルギー源として荷役運搬車両を走らせる実証実験を2022年末に開始しました。



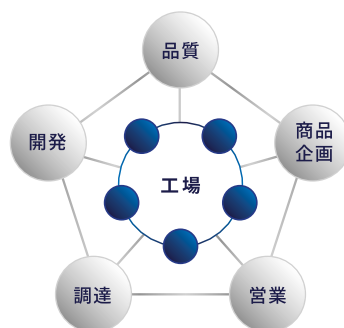
スマートファクトリー創造

世界の生活の足を守り抜く企業であり続けるために、2030年度のモノづくりのあるべき姿を描き、スズキ・スマートファクトリー創造を進めます。

スズキのモノづくりの根幹である「小・少・軽・短・美」とデジタル化の推進を組み合わせることで、データ・モノ・エネルギーの流れを最適・最小化、簡素化し、徹底的にムダをなくして、カーボンニュートラルへつなげていきます。

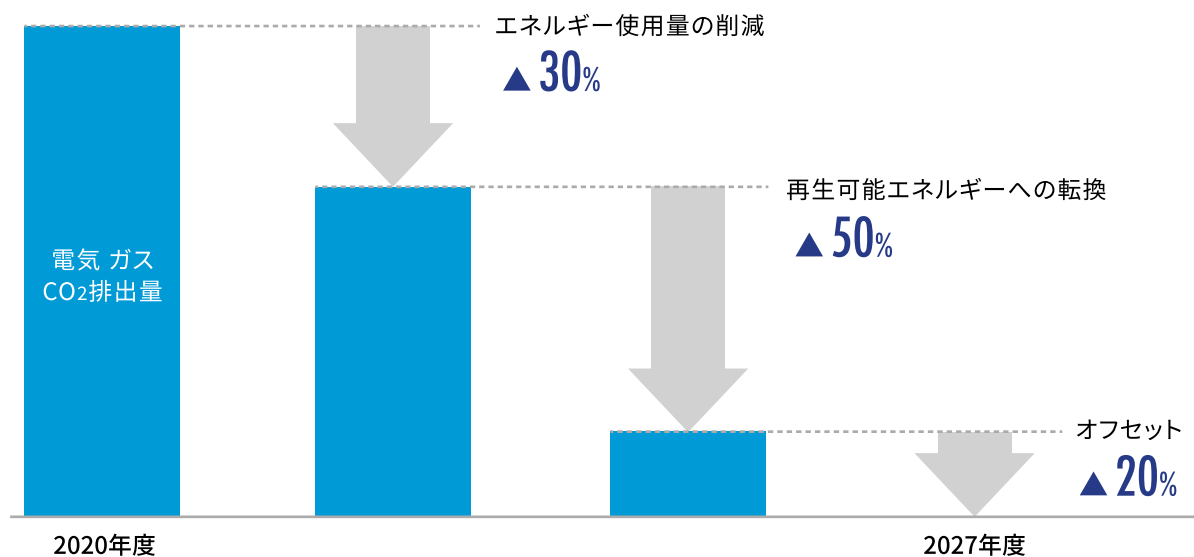


部門間のデータ連携強化



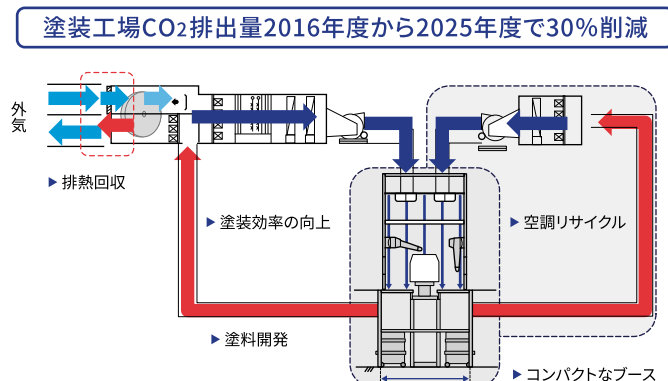
二輪車の生産拠点である浜松工場は2030年のカーボンニュートラル達成を宣言していましたが、エネルギー使用量の削減や再生可能エネルギーへの転換により、カーボンニュートラル達成を2027年度に前倒しします。浜松工場のノウハウを他工場にも展開することで、2035年度の国内全工場のカーボンニュートラル化に取り組んでいきます。

浜松工場のカーボンニュートラル 2030年 → **2027年度**



国内工場での取り組み

国内最大の生産拠点である湖西工場では、塗装設備の刷新と塗装技術の向上により、使用するエネルギーを効率化/最適化し、塗装工場のCO₂排出量30%削減に取り組んでいます。

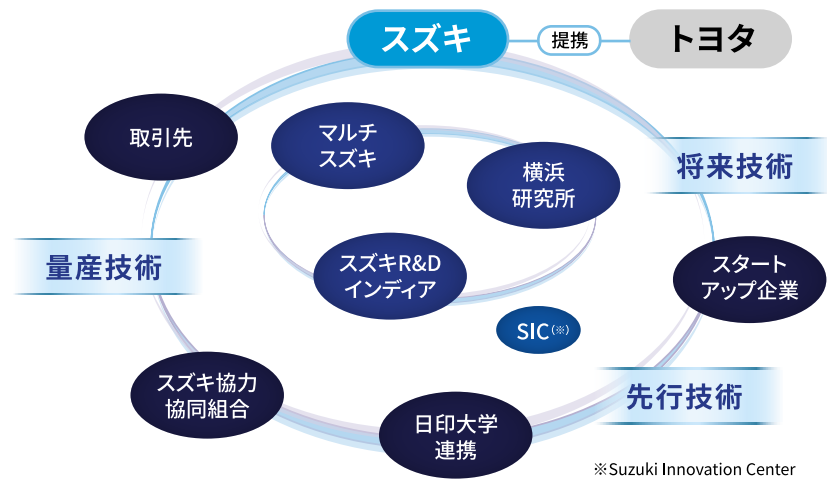


塗装工場CO₂排出量2016年度から2025年度で30%削減

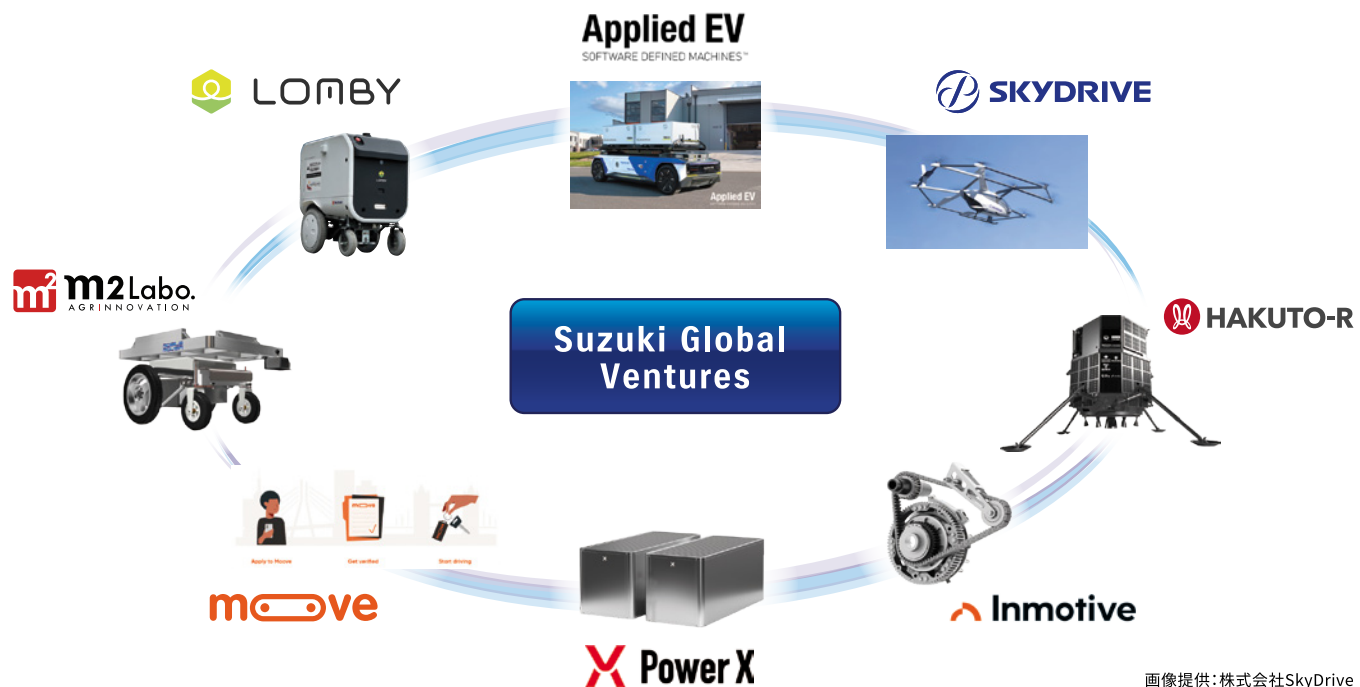
研究開発体制・外部連携

スズキ本社、横浜研究所、スズキR&Dセンターインド、マルチスズキが連携し、将来技術、先行技術、量産技術の領域分担をしながら、効率的に開発していきます。また、スズキがインドに徹底的に根付くため、スズキイノベーションセンターが0から1を見つけ出す探索活動を行っています。さらにスタートアップ企業、スズキ協力協同組合、日本・インドの大学との共同研究による産学官連携などグループ外とも連携しながらモノづくりの力を高めていきます。

トヨタ自動車株式会社とは、競争者であり続けながら協力開発を深化させ、持続的成長と自動車産業を取り巻くさまざまな課題克服を目指していきます。



2022年に設立したコーポレートベンチャーキャピタルファンドのSuzuki Global Venturesでは、企業及び既存の事業の枠を超えスタートアップとの共創活動を加速しています。



画像提供:株式会社SkyDrive

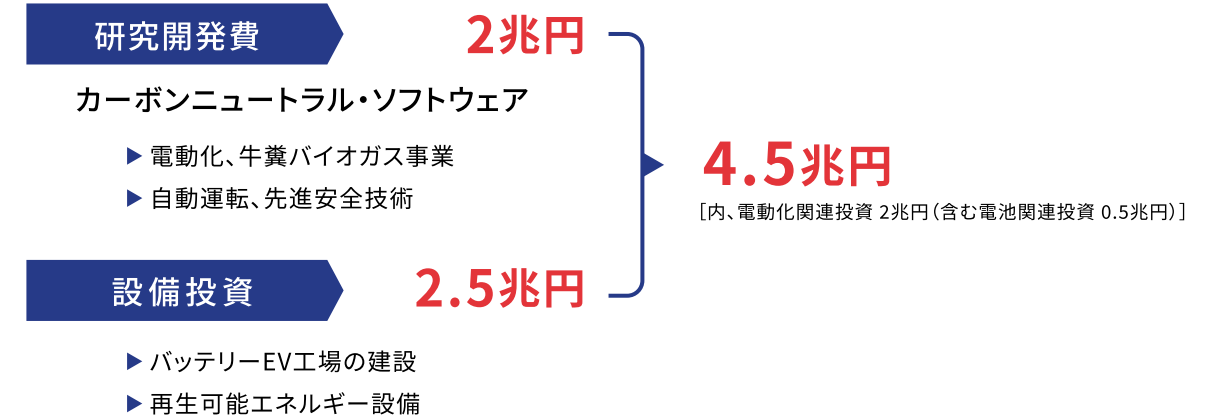
研究開発・設備投資

2030年度までに研究開発に2兆円、設備投資に2.5兆円、合わせて4.5兆円規模を投資していきます。4.5兆円のうち、電動化関連投資に2兆円、そのうち5,000億円を電池関連に投資していきます。

研究開発への投資は、電動化、バイオガスなどのカーボンニュートラル領域や自動運転などに2兆円を計画しています。

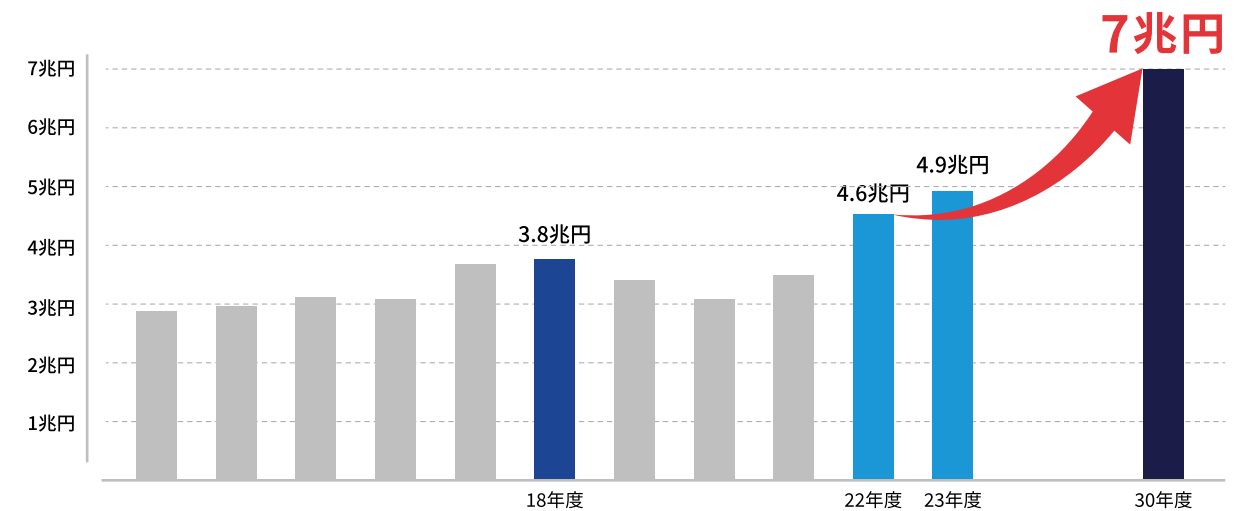
設備投資は、バッテリーEV工場の建設や再生可能エネルギー設備などに2.5兆円を計画しています。

2023年度～2030年度の資源投入



連結売上高目標

2022年度の連結売上高は過去最高の4.6兆円となりました。これからも、新興国の成長に貢献することで、スズキもともに成長していき、2030年度の売上高は7兆円規模を目指して挑戦を続けています。





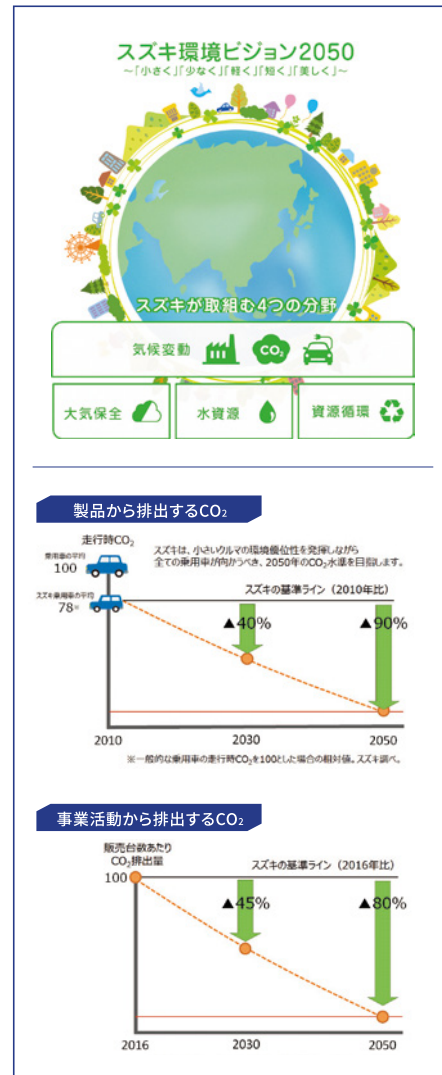
◆スズキ環境ビジョン2050

「小さく」「少なく」「軽く」「短く」「美しく」

スズキは、環境問題に対する長期視点の方向性、2050年に当社がありたい姿を示す「スズキ環境ビジョン2050」と、その実現に向けた道標「マイルストーン2030」を発表しました。事業活動から生じる環境影響を「小さく」「少なく」し、地球環境に与える負荷を「軽く」していくこと。さまざまな環境課題の解決に費やす時間を「短く」すること。そして、地球がいつまでも豊かで「美しく」あること。「小・少・軽・短・美」の理念に基づき、スズキが描く未来の実現を目指していきます。

	マイルストーン2030 (2030年までに)	環境ビジョン2050 (2050年までに)
1. 気候変動 製品から排出するCO ₂ 、 事業活動から排出するCO ₂ ：	Well to Wheel [®] で新車四輪車が排出するCO ₂ 「2010年度比40%減」を目指す 事業活動から生じるCO ₂ を販売台数あたり原単位で「2016年度比45%減」を目指す	Well to Wheel [®] で新車四輪車が排出するCO ₂ 「2010年度比90%減」を目指す 事業活動から生じるCO ₂ を販売台数あたり原単位で「2016年度比80%減」を目指す
2. 大気保全	●事業活動における化石燃料の使用を削減し、再生可能エネルギーの利用を拡大する ●クリーンな製品の開発を推進し、各国・地域の気候改善に貢献する ●生産や製品から生じる揮発性有機化合物 (VOC) を削減する	事業活動や製品から排出される大気汚染物質を最小化する
3. 水資源	スズキを取り巻く水リスクを特定し、全生産拠点で取水削減と排水浄化を実施する	水環境への負荷を最小化し、持続可能な水資源利用を実現する
4. 資源循環	●自動車リサイクルシステムのグローバル展開を目指す ●電動車の駆動用二次バッテリーのリサイクル、リビルド、リユースを推進する ●グローバル生産拠点で廃棄物発生量を低減する ●プラスチック梱包材を削減する	日本で培ったリサイクル技術やシステムをグローバル展開し、生産活動および製品から生じる廃棄物の削減と再生利用、適正処理を推進する

※ Well to Wheel: 自動車の走行時にテールパイプから直接排出されるCO₂に、燃料の採掘・精製、電気の発電段階で排出されるCO₂を加える考え方



◆スズキクリーンオーシャンプロジェクト

これまで続けてきた水辺の清掃活動が2020年に10周年を迎えたことを機に、「私たちに今できること」「スズキの船外機にできること」は何かを考え、スズキは海洋プラスチックごみ問題に焦点を当てた新たな取り組み「スズキクリーンオーシャンプロジェクト」を始動しました。従来からの取り組みをさらに発展させるべく、このプロジェクトについて3つの取り組みの柱を打ち立てました。

- [Project 1.] 水辺の清掃活動を継続し、海洋プラスチックごみを回収する
2022年には、活動開始からの累計参加人数が13,000人を突破しました!
- [Project 2.] 製品・部品の梱包材料からプラスチックを削減する
活動開始からのプラスチック削減量は、2023年3月で34.5トンに達しました!



マイクロプラスチック回収装置を取り付けた船外機

トピックス

[Project 3.] 海洋マイクロプラスチックを回収する

正しく回収されずに海に流れ込む大量の海洋プラスチックごみは近年大きな環境問題となっており、さらにそれらが自然環境下で微細に破碎されたマイクロプラスチックは生態系に及ぼす影響が懸念されています。そこでスズキは、船外機に取り付け可能なマイクロプラスチック回収装置を世界で初めて開発しました[※]。この装置を船外機に取り付けることにより、走行するだけで水面近くのマイクロプラスチックを回収することが「THE ULTIMATE OUTBOARD MOTOR (究極の船外機)」をお客様の共感を頂きながら環境面においても追及して参ります。なお、本装置は2022年7月より一部の船外機に標準装備されています。



※2020年10月1日現在、スズキ調べ。

◆世界のCSR取り組み

インド: マルチ・スズキ・インディア社 教育支援

当社はポダル教育ネットワークと協力してグジャラート州シタプルに学校を設立し、ハンサルプール、ベチャラジ、及び近隣の村の子供たちに質の高い教育を提供しています。



オーストリア: スズキオーストリア 森林保護活動

当社は、2022年に販売した車両と同じ数の苗木を植えて森林保護に努めています。気候変動による自然への影響は少なくなく、木食い虫が繁殖し木々が枯れるなどの被害が出ました。このような被害を受けた森林を保護する活動を続けています。



南アフリカ: スズキオート南アフリカ社 運転免許取得支援

若者の就職に有利な運転免許の取得をサポートしています。当社が寄贈したスズキ・エスプレッソに乗ってレッスンを受講し、無償で運転免許証を取得できる自動車学校プログラムを2021年から支援しており、これまでに66名の若者が免許を取得しました。



◆スズキ財団

「スズキ財団」は、スズキの創立60周年の記念事業の一つとして、関連企業とともに基金を寄託して1980年に設立しました。大学や研究機関へ研究助成・普及助成・海外助成の活動を行い、新しい研究に役立てていただいています。財団創立40周年を記念して、顕彰事業として「やまゝいか大賞・特別賞」を創設するなど、活発な活動を展開しています。



財団の概要 (2023年7月1日現在)
 ●財団名 公益財団法人スズキ財団
 ●所在地 東京都港区東新橋二丁目2番8号
 ●理事長 鈴木 俊宏 (スズキ株式会社 代表取締役社長)
 ●資産総額 111億1,193万円 (2023年3月31日現在)
 ●設立以来の助成件数 2,037件
 ●累計助成総額 25億7,748万円

◆スズキ教育文化財団

2000年10月、スズキ創立80周年の記念事業として「スズキ教育文化財団」を設立しました。スズキ教育文化財団は、経済的理由で学業に専念できない静岡県下の若者に対する奨学援助や児童・生徒のスポーツおよび学習活動に対する支援、特別支援学校や外国人学校等に対する支援など、青少年の健全育成を目的とした活動を行っています。



財団の概要 (2023年3月31日現在)
 ●財団名 公益財団法人スズキ教育文化財団
 ●所在地 静岡県浜松市南区高塚町300
 ●理事長 鈴木 俊宏 (スズキ株式会社 代表取締役社長)
 ●資産総額 47億3,475万円
 ●累計助成総額 6億8,242万円

◆スズキアスリートクラブ

スズキアスリートクラブは、オリンピックや世界陸上など国際大会で活躍できる選手の育成を目指し活動し、2004年のアテネオリンピックから2016年のリオデジャネイロオリンピックまで4大会連続で日本代表選手を輩出しています。オリンピックを中心に国内外で活躍するトップアスリートたちは、様々な地域で行われる陸上教室や講演会に協力し、自身の経験を踏まえ、日本の陸上競技の普及と発展、児童の体力向上に寄与しています。今後もスズキアスリートクラブでは陸上競技の楽しさや、スポーツを通じて得られる感動や夢を子ども達に伝える活動を続けてまいります。



◆スズキ歴史館

スズキ歴史館は、2009年4月に開館したスズキの「歴史」や「ものづくり」を紹介する展示施設です。織機・二輪車・四輪車・船外機など、時代とともに歩んできた創業以来の多くの製品と現在のクルマ作りの様子が展示されています。



国内拠点

スズキのモノづくりの根幹を表す「小・少・軽・短・美」を徹底して「価値ある製品」を世界中のお客様にお届けします。

「価値ある製品」づくりをめざすスズキは、これからの新しい時代、変化する社会に向かって、豊かな感性でスズキが創造すべき「新しい価値」を絶えず追求め、それを実現するための新しい技術にチャレンジしています。工場でも、生産性の向上、厳しい品質管理、カーボンニュートラルへの対応などの改善活動に、常に取り組んでいます。



1 本社 ■ 業務内容: 本社業務 ■ 所在地: 静岡県浜松市中央区高塚町300



2 横浜研究所



3 マリン技術センター



4 電洋コースおよび関連会社



5 下川コース



6 湖西工場
■ 業務内容: 軽乗用車・軽商用車・小型乗用車、四輪車エンジン、船外機、電動車いすの生産
■ 所在地: 静岡県湖西市白須賀4520
■ 生産機種: アルト、ワゴンR、DF350A(船外機)等



8 相良工場
■ 業務内容: 小型乗用車、四輪車エンジンの生産、およびエンジン主要部品の鋳造、機械加工
■ 所在地: 静岡県牧之原市白井1111
■ 生産機種: スイフト、ソリオ等



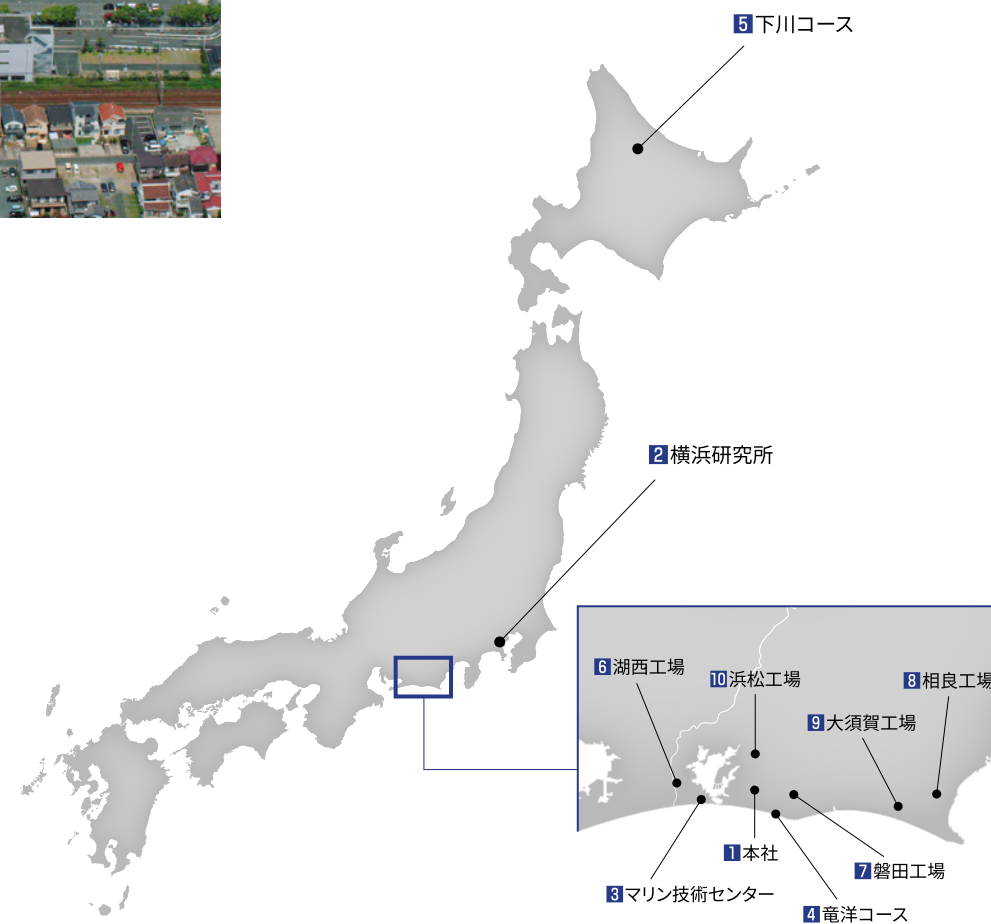
7 磐田工場
■ 業務内容: 軽乗用車・軽商用車の生産
■ 所在地: 静岡県磐田市岩井2500
■ 生産機種: エブリイ、キャリイ等



9 大須賀工場
■ 業務内容: 鋳造部品の製造
■ 所在地: 静岡県掛川市西大淵6333



10 浜松工場
■ 業務内容: 二輪車、二輪車エンジンの生産、二輪車の試験・開発
■ 所在地: 静岡県浜松市浜名区都田町8686
■ 生産機種: Hayabusa、V-STROM 1050等

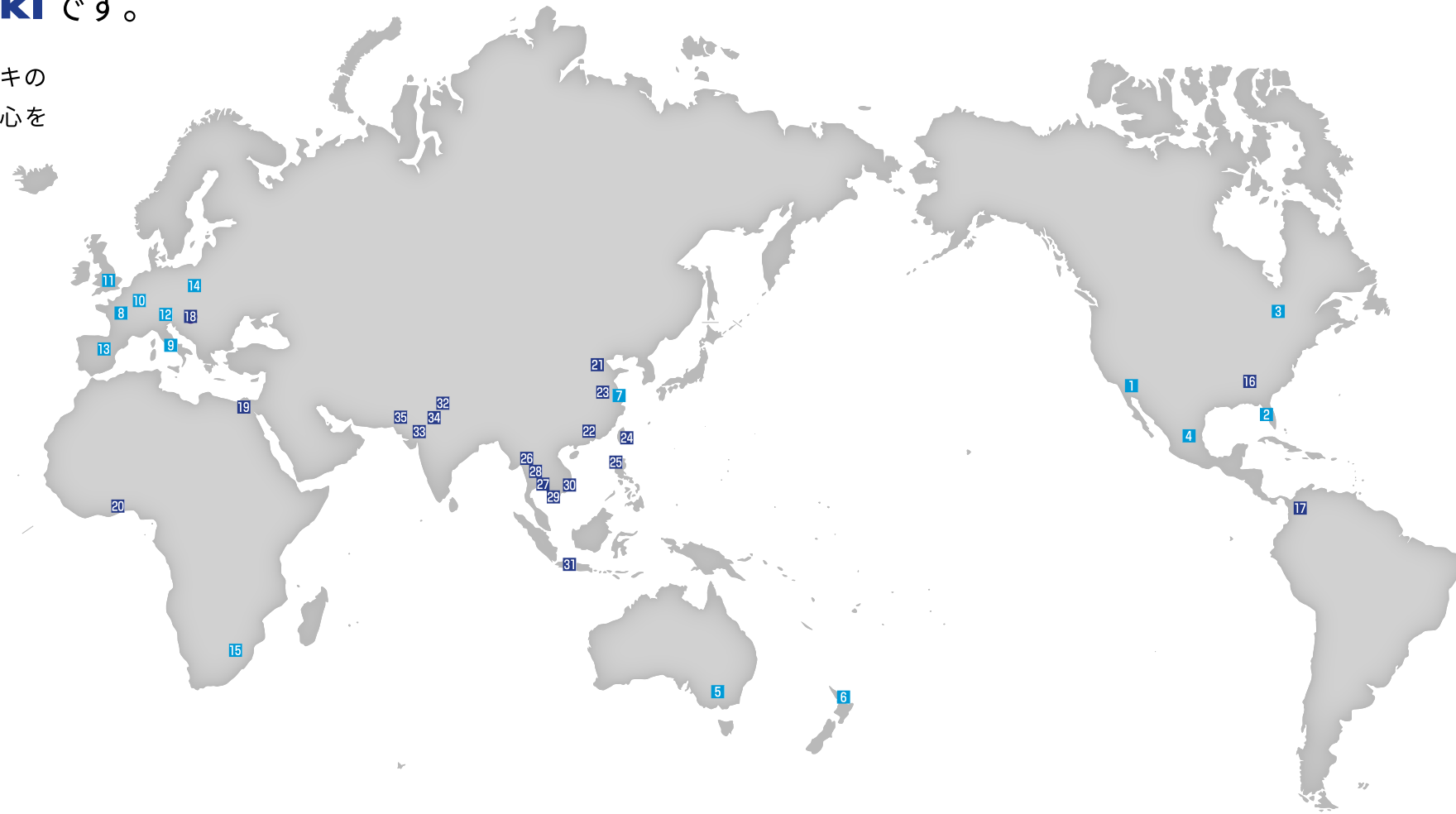


スズキのモノづくりを、製品別に映像でご覧いただけます。



世界のすみずみにまで浸透する、
世界のブランド **SUZUKI** です。

親しみやすく使いやすい、高品質なスズキの
製品は、世界中の国や地域でお客様の心を
しっかりとつかんでいます。



18 マジャールスズキ社 (ハンガリー)



25 スズキフィリピン社 (フィリピン)



31 スズキ・インドモーター・モーター社 チカラン工場 (インドネシア)



32 マルチ・スズキ・インディア社 グルガオン工場 (インド)



33 マルチ・スズキ・インディア社 マネサール工場 (インド)



38 スズキ・モーター・グジャラート社 (インド)



24 スズキ・モーター・サイクル・インディア社 (インド)



35 パックスズキモーター社 (パキスタン)



27 スズキ・モーター・タイランド社 (タイ)



28 タイスズキモーター社 (タイ)



30 ベトナム スズキ社 (ベトナム)

主な海外直営代理店

	四輪車	二輪車	船外機
1 スズキモーターUSA社 (アメリカ)		★	
2 スズキマリンUSA社 (アメリカ)			★
3 スズキカナダ社 (カナダ)		★	★
4 スズキメキシコ社 (メキシコ)	★	★	★
5 スズキオーストラリア社 (オーストラリア)	★	★	★
6 スズキニュージーランド社 (ニュージーランド)	★	★	★
7 スズキ中国社		★	★
8 スズキフランス社 (フランス)	★	★	★
9 スズキイタリア社 (イタリア)	★	★	★
10 スズキドイツ社 (ドイツ)	★	★	★
11 スズキGB社 (イギリス)	★	★	★
12 スズキオーストリア社 (オーストリア)	★	★	
13 スズキイベリカ社 (スペイン)	★	★	
14 スズキモーターポーランド社 (ポーランド)	★	★	★
15 スズキオート南アフリカ社 (南アフリカ)	★	★	★

(2023年3月31日現在)

主な海外生産会社

	四輪車	二輪車	船外機
16 スズキ・マニュファクチャリング・オブ・アメリカ社 (アメリカ)		○ (ATV)	
17 スズキコロンビア社 (コロンビア)		○★	★
18 マジャールスズキ社 (ハンガリー)	○★	★	★
19 スズキエジプト社 (エジプト)	○		
20 豊田通商マニュファクチャリングガーナ (ガーナ)	○		
21 済南軽騎鈴木摩托車有限公司 (中国)		○★	
22 江門市大長江集团有限公司 (中国)		○★	
23 常州豪爵鈴木摩托車有限公司 (中国)		○★	
24 台鈴工業股份有限公司 (台湾)		○★	
25 スズキフィリピン社 (フィリピン)	★	○★	★
26 スズキティラワモーター社 (ミャンマー)	○★	★	
27 スズキ・モーター・タイランド社 (タイ)	○★		
28 タイスズキモーター社 (タイ)		○★	○★
29 カンボジアスズキモーター社 (カンボジア)	★	○★	
30 ベトナムスズキ社 (ベトナム)	○★	○★	
31 スズキ・インドモーター・モーター社 (インドネシア)	○★	○★	★
32 マルチ・スズキ・インディア社 (インド)	○★		
33 スズキ・モーター・グジャラート社 (インド)	○		
34 スズキ・モーター・サイクル・インディア社 (インド)		○★	
35 パックスズキモーター社 (パキスタン)	○★	○★	★

(2023年3月31日現在)

国内 四輪車事業

小さなクルマ、大きな未来。

スズキは、1955年に軽四輪車「スズライト」を発売して以来、一貫して小さなクルマづくりを追求してきました。実用的な軽自動車として発売され、女性を中心にヒットした「アルト」、軽ワゴンという新しいジャンルを切り拓いた「ワゴンR」、世界で高い評価をいただいているコンパクトカー「スイフト」など小さなクルマづくりの技術を凝縮したスズキの製品は、ご愛用されています。また、これらの製品を安心安全にお乗り続けていただくために、日本中にある代理店、販売店を通じてお客様にサービスを提供しています。



アルト



ワゴンR



ワゴンR スマイル



ハスラー



ジムニー



スイフト



イグニス



ソリオ



クロスビー



ジムニー シェラ



スペースア ベース



エブリイ



キャリイ



エブリイワゴン 車いす移動車

国内 四輪車事業 (代理店)



サービス工場



ショールーム



店舗外観

福祉機器・産業機器事業

スズキの技術は、福祉機器や産業機器を通じて社会に貢献しています。

二輪車・四輪車の開発で培った技術の応用は、斬新な発想で多角的に広がっています。セニアカーなどの福祉機器や超音波技術を用いた各種の産業機器を通じて社会に貢献しています。

福祉機器



セニアカー ET4D

セニアカー ET4E

産業機器



超音波ホッチキス「はるる」
AUH30

超音波カッター
SUW-30CD

超音波溶着機
SUW300

その他の事業

スズキは、子会社の(株)スズキビジネスを通じ、生活・自動車関連のサービス事業も幅広く行っています。

- 不動産事業部
土地開発・販売、分譲マンションの企画・販売、賃貸店舗開発・賃貸、不動産賃貸・売買仲介、太陽光発電、工業団地開発
- 住宅事業部
スズキハウス(本格住宅・小住宅等)建設・販売、住宅リフォーム、太陽光発電設置工事の請負
- オート用品事業部
二輪車・四輪用品の企画・開発・販売、各種イベントの物販運営、販売
- 石油事業部
ガソリンスタンド、一般用LPガス、工場用燃料、潤滑油、ガス販売等
- 特販事業部
ワイン・はちみつ等国内外各種製品の輸入・販売、日本トリム整水器販売、携帯電話・スマートフォン・タブレット・衛星電話等の通信機器販売、旅行事業(旅行業者代理業)
- 保険事業部
損害保険、生命保険の保険代理店
- 環境美化事業部
ビル管理、生産設備清掃、清掃管理、塗装、除草、伐採等
- ゴルフ事業部
「いなさゴルフ倶楽部」の運営



ハンガリーワイン



いなさゴルフ倶楽部



スズキハウス Vite Smile



プラザ湖西セルフSS

つくるよろこびと使うよろこび。
その国の人々の笑顔が信頼の証です。

「価値ある製品」をつくる、というスズキの企業姿勢は世界各国から多くの賛同をもって迎えられ、現在、海外20の国・地域で25社の現地生産会社が活躍しています。パートナーシップのもとにそれぞれの国や地域の経済発展を望み、産業の育成・雇用の拡大に貢献すべく努めています。



NEXAショールーム:インド (マルチ・スズキ・インド社)

海外生産車



BALENO:インド (マルチ・スズキ・インド社)



CELERIO:インド (マルチ・スズキ・インド社)



S-CROSS:ハンガリー (マジャールスズキ社)



ERTIGA:インドネシア (スズキ・インドモーター社)



2022年グジャラート工場、累計生産200万台記念式典の様子:
インド (スズキ・モーター・グジャラート社)



2020年船外機生産累計100万台記念式典の様子:タイ (タイスズキモーター社)



SATRIA F150:インドネシア
(スズキ・インドモーター・モーター社)



V-STROM 250SX:インド
(スズキ・モーターサイクル・インド社)



BURGMAN STREET 125EX:インド
(スズキ・モーターサイクル・インド社)



プレス向け世界統一試乗会 [V-STROM 800DE]



インド (マルチ・スズキ・インド社)



ハンガリー (マジャールスズキ社)



GSX250R:中国
(常州豪爵鈴木摩托車有限公司)



KINGQUAD 750AXi 4x4
Power Steering Special Edition:アメリカ
(スズキ・マニュファクチャリング・オブ・アメリカ社)



DF30A/DF25A:タイ
(タイスズキモーター社)

世界のバイク好きに、バイクのある豊かな生活を提供したい。

この志のもと、「走る・曲がる・止まる」の性能を追求するだけでなく、日常使いから趣味のライディングに幅広く求められる様々な機能を、総合的に最適化して実現する。それがスズキの企画開発力と技術力です。

スクーターからスポーツバイクまで、それぞれに走る道、乗る人、用途は違っても、スズキの社員一人一人が情熱と自信をもって世に送り出し、お届けしている製品です。一台一台にスズキの技術と心が込められています。



Hayabusa 25周年記念モデル※

※掲載の写真は、プロのライダーがクローズドコースで走行した、用品(別売り)装着車です。



GSX-8S※



V-STROM 800DE※



KATANA



GSX-S1000GT



V-STROM 1050DE



パーグマン400 ABS

豊かなマリンライフをこれからも。

スズキは、1965年に船外機事業に進出して以来、新技術の開発に情熱を持って取り組み続けて参りました。これにより培われた高い技術力は、マリン技術界では世界最高の栄誉の一つとされているアメリカ マリン工業会 (NMMA) の技術革新賞を多くの機種で受賞する等、世界で高く評価されております。

これからもスズキは、「THE ULTIMATE OUTBOARD MOTOR (究極の船外機)」のスローガンのもと、業界をリードする革新的な技術を活かし、耐久性・信頼性・走行性能・利便性・快適性、更には環境性能にも優れた船外機を提供して参ります。そして、世の中の役に立つ「究極のマリンブランド」を実現すべく、脱炭素社会への準備を進めて参ります。



DF140B



DF350A



DF350A



DF300AP



DF200A



DF140B



DF30A



DF9.9B



DF6A

感謝。感謝。
感謝の100年でした。



お客さまのためなら、
どんなことをしてでもこたえろ。
頑張れば、できるもんだ。

- 創業者 鈴木 道雄 -

2020年(令和2年)3月15日。
おかげさまで、スズキ株式会社は
創立から100年を迎えました。

1920年3月15日。
鈴木道雄により創立された
鈴木式織機株式会社。
時代の変遷にあわせ、織機から二輪車、
四輪車、船外機など、その製品は広がり、
世界のさまざまな人々の暮らしを
支える会社へと姿を変えてきました。
スズキの100年。それは、
お客様のご愛顧とご支援に
支えられた100年です。
私たちはその感謝を胸に抱き、
創業者鈴木道雄から引き継ぐ
「お客様の立場になって価値あるものを」
というスズキのものづくりの原点を
いつまでも大切に、
これからも「使いやすさ」、「楽しさ」、「驚き」で、
世界中の人々にとってワクワクを提供できる
製品づくりに挑戦していきます。

お客様に感謝をこめて。
スズキの挑戦はこれからも。

1920年 1950年代 1960年代 1970年代

1909年
鈴木道雄、静岡県
浜名郡天神町村で
鈴木式織機製作所
を創業



法人設立
1920年
鈴木式織機株式会社
として法人設立、
鈴木道雄、社長に就任

1954年
鈴木自動車工業
株式会社に社名変更



1958年
社章  マーク
制定

1962年
社是制定



1964年
竜洋
テストコース完成

1966年
社旗・社歌制定

1969年
富山県
小矢部市に
富山工場が
竣工

1970年
静岡県小笠郡に
大須賀工場
(鑄造)が竣工



1970年
静岡県湖西市に
湖西工場(四輪車)が
完成



1971年
愛知県豊川市に
豊川工場(二輪車)が完成



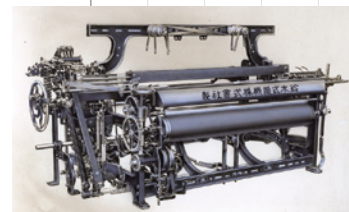
1975年
パキスタンで
四輪車の組立を開始
(四輪車初の海外生産)

1979年
豊川特機工場
で船外機の生産を開始

織機事業

1929年
サロン織機開発

1930年
織機の
海外輸出開始



1961年
織機事業を鈴木式織機株式会社
として分社化

1986年
織機の生産を
終了

二輪事業

1952年
自転車用
補助エンジン
「パワーフリー号」
発売

1954年
「コレタCO」
発売



1971年
「GT750」発売



四輪事業

1955年
軽四輪乗用車
「スズライト」発売



1961年
軽四輪トラック
「スズライトキャリイ」
発売



1970年
軽四輪駆動車
「ジムニー」発売



1979年
軽自動車
「アルト」発売



マリン事業他

1965年
船外機
「D55」発売



1974年
電動車いす
「モーターチェア
Z600型」発売













1974年
住宅部門に進出

1936年
四輪車の研究を開始














第二次世界大戦の影響で
四輪車の開発を中断



1980年代 1990年代 2000年代 2010年代 2020年代

<p>1983年 インド、マルチ社でスズキ四輪車生産開始</p> 	<p>1989年 横浜研究所が完成</p> 	<p>1990年 スズキ株式会社に社名変更</p> <p>1990年 ハンガリーでの四輪車合弁生産に基本合意</p> 	<p>1997年 下川テストコース開所</p> 	<p>2002年 インド・マルチ社を子会社化</p> 	<p>2008年 静岡県牧之原市に相良工場(四輪車組立工場)が完成</p> 	<p>2009年 「スズキ歴史館」が開館</p> 	<p>2017年 トヨタとスズキ、業務提携に向けた覚書を締結</p> <p>2017年 インドのグジャラート工場が稼働</p> 	<p>2018年 静岡県浜松市に浜松工場(二輪車)が完成</p> 	<p>2020年 スズキ創立100周年</p> <p>2022年 インド事業40周年</p> <p>2022年 インドでの電気自動車および車載用電池生産に関する覚書をグジャラート州と締結</p> 	<p>2023年 社是改定</p>
---	--	---	--	---	--	---	---	---	--	------------------------------














二輪事業

<p>1981年 「GSX1100S KATANA」発売(輸出)</p> 	<p>1985年 「GSX-R750」発売</p> 	<p>1991年 「アドレスV100」発売</p> 	<p>1995年 「DR250R」発売</p> 	<p>1999年 「Hayabusa」(GSX1300R) 発売(輸出)</p> 	<p>2001年 「GSX-R1000」発売(輸出)</p> 	<p>2002年 「スカイウェイブ650」発売</p> 	<p>2006年 「ブルバード M109R」発売(輸出)</p> 	<p>2014年 「V-Strom 1000 ABS」発売</p> 	<p>2015年 「GSX-S1000 ABS」、 「GSX-S1000F ABS」発売</p> 	<p>2018年 「KATANA」発売</p> 	<p>2021年 「Hayabusa」発売</p> 	<p>2023年 「パークマン ストリート125EX」</p> 
---	--	---	--	--	---	---	---	---	---	---	--	---

四輪事業

<p>1983年 小型車「カルタス」発売</p> 	<p>1988年 四輪駆動車「エスクード」発売</p> 	<p>1991年 軽乗用車「カプチーノ」発売</p> 	<p>1993年 軽乗用車「ワゴンR」発売</p> 	<p>2004年 小型車「スイフト」発売</p> 	<p>2006年 小型車「SX4」発売</p> 	<p>2011年 小型車「ソリオ」発売</p> 	<p>2013年 軽乗用車「スペーシア」発売</p> 	<p>2014年 軽乗用車「ハスラー」発売</p> 	<p>2016年 小型車「パレオ」発売</p> 	<p>2021年 軽乗用車「ワゴンR スマイル」発売</p> 	<p>2022年 軽乗用車「スペースアベース」発売</p> 
---	--	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--

マリン事業他

<p>1980年 発電機事業に進出</p>	<p>1981年 船外機「DT140」発売</p> 	<p>1985年 セニアカー「ET10型」発売</p> 	<p>1987年 船外機「DT200EXANTE」発売(輸出)</p> 	<p>1997年 船外機「DF9.9」発売</p> 	<p>1998年 船外機「DF70」発売</p> 	<p>1999年 タイで船外機の生産を開始</p>	<p>1999年 セニアカー「ET4A」発表</p> 	<p>2001年 カインドチェア「AC22」発表</p> 	<p>2003年 船外機「DF250」発売</p> 	<p>2005年 「タウンカート」発売</p> 	<p>2008年 船外機技術センター竣工</p> 	<p>2010年 船外機「DF50」発売</p> 	<p>2017年 船外機「DF350A」発売</p> 	<p>2022年 「DF140B/BG、DF115B/BG、DF100C」にマイクロプラスチック回収装置を標準装備</p>  <p><small>※写真はDF140B</small></p>
----------------------------------	--	--	--	--	---	--------------------------------------	---	---	--	--	---	---	---	---

※商品に関する記載は日本国内向けのものです。(輸出の記載がある場合を除く。)